

教 育 委 員 会  
点検・評価報告書 (案)

《平成 27 年度対象》

平成 28 年 8 月

横須賀市教育委員会



# 目 次

◆ はじめに	1
(1) 点検・評価の目的	1
(2) 点検・評価の方法	2
(3) 留意事項	2
参考【市立学校数】	2
◆ 重点課題に対応する主な事業	4
○ 重点課題（平成 26 年度～平成 29 年度）	6
○ 点検・評価報告書の見方（重点課題に対応する主な事業）	8
1 重点課題に対応する主な事業	10
◆ 目標・施策に基づく関連事業	58
○ 点検・評価報告書の見方（関連事業）	60
2-1 目標・施策に基づく関連事業（学校教育編）	62
2-2 目標・施策に基づく関連事業（社会教育編）	84
2-3 目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）	108
◆ 目標指標	124
○ 点検・評価報告書の見方（目標指標）	126
3-1 目標指標（学校教育編）	128
3-2 目標指標（社会教育編）	135
3-3 目標指標（スポーツ編）	139
◆ 用語解説	144

## ◆はじめに

### (1) 点検・評価の目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条において、平成 20 年度から、すべての教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について毎年点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、公表することが義務付けられました。

横須賀市教育委員会では、平成 22 年度に計画期間を平成 23 年度から平成 33 年度までとする「横須賀市教育振興基本計画」を新たに策定いたしました。これは、本市全体の施策体系を示した「横須賀市基本計画(2011～2021)」に合わせて計画の改定を行ったものです。

平成 23 年度までは、平成 13 年度に策定した「横須賀市教育基本計画(よこすか未来人プラン)」(平成 14 年度～平成 23 年度)で示した施策体系に基づいて、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的に、平成 19 年度対象分から継続して点検・評価を行ってきたところではありますが、平成 24 年度からは「横須賀市教育振興基本計画」で示した施策体系に基づき、内容も新たな形とした点検・評価を行っております。本年度につきましても「横須賀市教育振興基本計画」で示した施策体系に基づき、「教育委員会点検・評価報告書(平成 27 年度対象)」を作成いたしました。

この報告書をご覧いただき、横須賀市教育委員会の取り組みにご意見をいただくことで、今後の教育行政に活かしてまいります。また、今後も計画に掲げた目標の達成に向けて、着実に施策・事業を展開してまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## (2) 点検・評価の方法

「横須賀市教育振興基本計画」における重点課題に対応する主な事業を中心に、「学校教育編」、「社会教育編」、「スポーツ編」と3つに区分された各編の関連事業、目標指標の計画に対する実績を基に、教育委員会で点検・評価を行っています。評価に当たっては、客観性を確保するために、外部の学識経験を有する方から施策や事業についてご意見をいただいております。

【ご意見をいただいた学識経験者の方】 ※五十音順

小林 宏己 先生 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)

今野 睦夫 先生 (防衛大学校 名誉教授、日本運動・スポーツ科学学会監事)

蛭田 道春 先生 (大正大学 名誉教授)

## (3) 留意事項

- \* この点検・評価は、教育委員会が管理・執行している事務が対象になっています。
- \* この点検・評価に対するご意見等がございましたら、巻末に添付しております「横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見」により、お寄せください。

「横須賀市教育委員会の点検・評価についてのご意見」は、以下のホームページからも入手できます。

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8110/tenken.html>

## 参考【市立学校数】

学校種別	25年度	26年度	27年度	備考
幼稚園	2	2	2	
小学校	46	46	46	
中学校	23	23	23	
高校	1	1	1	全日制・定時制
特別支援学校	2	2	2	ろう学校、養護学校



## ◆ 重点課題に対応する主な事業

- 重点課題（平成 26 年度～平成 29 年度）
- 点検・評価報告書の見方  
（重点課題に対応する主な事業）

### 1 重点課題に対応する主な事業





## 重点課題

(平成 26 年度～平成 29 年度)

「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けました。

### 重点課題1 学校・家庭・地域の連携推進

食事、睡眠、あいさつなどの基本的な生活習慣、家庭学習や読書、運動の習慣、社会のルールを守るといった規範意識<sup>(注1)</sup>などを子どもに身に付けさせるには、学校・家庭・地域が共通の認識を持って子どもを育てることが重要です。そのために、学校・家庭・地域の連携をさらに推進することを目指して、学社連携・融合<sup>(注2)</sup>や地域スポーツの充実、家庭向けリーフレットの配布など、学校・家庭・地域が、共に子どもの教育に関わる仕組みや場、機会を充実させます。また、家庭や地域の教育力の向上を目指して、学習の機会および各種情報を提供します。

### 重点課題2 学力・体力の向上

子どもの「学力や体力」に関する課題の解決に向けて、「思考力・判断力・表現力」「学習意欲や持続性」「体力・運動能力」の向上を目指し、各学校の「学力向上プラン」の充実や、子どもの「健康・体力向上」のための対策に取り組みます。また、義務教育9年間においては、学びの系統性・連続性を重視した教育の充実を図ります。

### 重点課題3 いじめ・暴力・不登校の未然防止と早期解決

子どもの心の一面を映し出しているともいえる「いじめや暴力行為の発生率」「不登校<sup>(注3)</sup>の出現率」が高いという状況を改善し、未然防止と早期解決を目指して、相談体制の整備を進めるほか、総合的な支援策や関係機関とのさらなる連携を進めます。また、小学校教育と中学校教育の滑らかな接続を図ることにより、子どもの過度な心の負担を減らします。

### 重点課題4 学校の教育力向上

教員が子どもと向き合う時間が十分に確保できていないことや、経験年数の少ない教員の割合が増えていることによるさまざまな課題に対応し、学校の教育力の向上を目指して、教員が子どもと向き合う環境づくりや人材育成などの支援策を進めます。

## 重点課題5 社会教育施設による学習支援の推進

子どもの感性を磨き、創造性を培い、個性を伸ばせるような展示や体験的教育プログラムを社会教育施設<sup>(注4)</sup>の多様性、専門性を生かして提供します。

### 重点課題に対応する主な事業

学校教育編、社会教育編、スポーツ編の事業のうち、重点課題に対応する主な事業を示しました。

重点課題 No					事業名	掲載編	頁
1	2	3	4	5	子ども読書活動推進事業	学校教育編	10
1	2	3	4	5	「輝け！よこすかの子どもたち（市民向け広報紙）」の発行	学校教育編	12
1	2	3	4	5	学校いきいき事業	学校教育編	14
1	2	3	4	5	学校支援ボランティア・コーディネーター導入の検討	社会教育編	16
1	2	3	4	5	家庭教育講演会の開催	社会教育編	18
1	2	3	4	5	総合型地域スポーツクラブ <sup>(注5)</sup> 育成事業	スポーツ編	20
1	2	3	4	5	家庭との連携による生活習慣、学習習慣の確立	学校教育編	22
1	2	3	4	5	児童生徒健康・体力向上推進事業	スポーツ編	24
1	2	3	4	5	学校評価推進事業	学校教育編	27
1	2	3	4	5	学力向上事業	学校教育編	29
1	2	3	4	5	小中一貫教育 <sup>(注6)</sup> 推進事業	学校教育編	32
1	2	3	4	5	支援教育 <sup>(注7)</sup> 推進事業	学校教育編	34
1	2	3	4	5	いじめ・不登校 <sup>(注3)</sup> 対策事業	学校教育編	36
1	2	3	4	5	人材育成推進支援	学校教育編	45
1	2	3	4	5	子どもと向き合う環境づくりの推進	学校教育編	47
1	2	3	4	5	子ども読書活動推進事業	社会教育編	49
1	2	3	4	5	子ども向け博物館教育普及活動の推進	社会教育編	51
1	2	3	4	5	美術館展覧会の充実	社会教育編	53
1	2	3	4	5	美術館教育普及活動の推進	社会教育編	55

※網掛けの番号は、事業が対応する重点課題の番号を示します。

○点検・評価報告書の見方(重点課題に対応する主な事業)

1 重点課題に対応する主な事業

横須賀市教育振興基本計画の各事業のうち重点課題に対応する主な事業で、19事業あります。

横須賀市教育振興基本計画では、「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けております。この重点課題に対応する主な事業について、その進捗度を測ります。

事業名を記載しています。「○○事業」という表記の他に「○○の検討」などの表記をしている場合もあります。

No. 1	事業名	子ども読書活動推進事業
-------	-----	-------------

1. 基礎情報

事業ごとに、対応する重点課題、掲載編、関連目標、関連施策、事業を担当する課を明記し、基礎情報としました。

2. 事業の概要

事業の概要について記載しています。

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進	児童生徒の読書への関心や主体的な学習の力を高めるために、学校図書館機能の充実を目指し、学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等の配置や蔵書情報のデータベース化、教職員の研修の充実、市立図書館との連携を強化します。
掲載編	学校教育編	
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします	
関連施策	施策(1):教育活動の充実	
担当課	教育指導課	

3. 行動計画

具体的な行動と、平成27年度計画に対しての平成27年度の実績を記入しています。(計画と実績が異なる場合は、下記の枠にその理由を記載しています。)

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	配置	—	—
蔵書情報のデータベース化	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	検討	—	—
司書教諭研修講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	—	—
市立図書館の資料活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
ボランティアの養成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
(計画と実績が異なる場合の理由)					

本事業について、平成27年度の具体的な取り組みとその効果を記載しています。

#### 4. 実施内容(実績)および効果

##### 【実施内容】

- 学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)が市内小中学校12校に週1.5日勤務した。
- 蔵書情報データベース化に向け、市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣し蔵書の整理や図書館の整備を行った。
- 司書教諭研修講座は司書教諭以外の教員も参加を可能とし、8月に青山女子短期大学の堀川照代教授をお招きし「学校図書館活用で育まれる力」という演題で行った。
- 市立図書館の資料活用については、年2回の学校図書館担当者会に児童図書館長に出席いただき、取組方法について周知した。
- ボランティアの養成については市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行い、基本的図書館の整備方法について実践しながら講習を行った。

##### 【効果】

- 学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)を派遣した小学校については、派遣していない小学校よりも「読書が好き」な子どもの数や「1カ月の平均読書冊数」が上回り、派遣の効果がみられた。
- 蔵書情報データベース化に向けて、市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣し、蔵書の整理や図書館の整備を行った。27年度で全校の整備が一通り終了し、データベース化に向けて動きやすい環境を作った。
- ボランティアの養成については市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行い、基本的図書館の整備方法について実践しながら講習を行った。のべ369人のボランティアと関わることができた。

本事業についての課題を記載しています。

#### 5. 課題

- 平成28年度からの学校司書小学校全校配置をより効果的なものにするためには、学校司書の研修体制を整えとともに、学校図書館支援センターのような組織や学校図書館アドバイザー等の人的配置の必要性も感じている。
- 学校図書館の整備状況について学校司書の打ち合わせ会を通じて把握し、市としての方向性をもって改善を図っていく必要がある。
- 蔵書情報データベース化に向けては、中学校は図書館にパソコンが入っていないため進めることが不可能である。また、小学校の図書館にはパソコンが入っているが、OS環境が整っていないため、データベース化が進みにくい。

課題に対する今後の改善策を記載しています。

#### 6. 課題に対する今後の改善策

- 学校司書が司書教諭やボランティアと共同してより良い学校図書館づくりに取り組めるように、配置校を巡回して読書活動の推進と授業での活用について学校への啓発を行っていく。
- 市立図書館や学校図書館ボランティアとの連携を強化し児童生徒や教員が使いやすい学校図書館づくりをめざす。
- 蔵書のデータベース化に各学校が取り組めるように、図書館整備を進めていきたい。
- 学校図書館担当者会で図書館活用やデータベース化のメリットについて周知していきたい。

外部の学識経験者の方から本事業1～5についていただいたご意見等を掲載しています。

##### ※学識経験者の意見等

- より良い学校図書館づくりはICT教育や探究的な授業の促進を図る上で必要不可欠な要素である。教師が「教える授業」から児童生徒自らが「求めて学ぶ」、「学びに向かう」姿を生み出すために、調べたり相談したりできる場所としての学校図書館の一層の充実が望まれる。

外部の学識経験者からいただいたご意見に対する担当各課の今後の方向性を記載しています。

##### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 学校図書館の学習センター、情報センターとしての機能を生かした研究推進校をはじめとする各校の実践を、学校図書館担当者会、学校司書連絡会で発信し、有効な取組が市内で共有できるようにしている。児童生徒自らが「求めて学ぶ」、「学びに向かう」姿を生み出すために、今後も教育課程に寄与する学校図書館づくりにおいて物的整備、人的整備の充実を図っていきたい。特に、司書教諭や学校司書の研修の充実を図り、各教科での調べ学習における指導や支援への理解が深まるように取り組んでいきたい。

##### ※備考(補足説明・用語解説など)

補足説明や用語解説等があれば、記載しています。

# 1 重点課題に対応する主な事業

横須賀市教育振興基本計画では、「横須賀の子ども像」「目指す子どもの教育の姿」の実現に向けて、解決すべき課題をあらためて捉え「重点課題」として位置付けております。この重点課題に対応する主な事業について、その進捗度を測ります。

No. 1	事業名	子ども読書活動推進事業
-------	-----	-------------

## 1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題1:学校・家庭・地域の連携推進
掲載編	学校教育編
関連目標	目標1:子どもの学びを豊かにします
関連施策	施策(1):教育活動の充実
担当課	教育指導課

## 2. 事業の概要

児童生徒の読書への関心や主体的な学習の力を高めるために、学校図書館機能の充実を目指し、学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等の配置や蔵書情報のデータベース化、教職員の研修の充実、市立図書館との連携を強化します。

## 3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)等	計画	配置	配置	配置	配置
	実績	配置	配置	—	—
蔵書情報のデータベース化	計画	検討	検討	検討	検討
	実績	検討	検討	—	—
司書教諭研修講座	計画	開催	開催	開催	開催
	実績	開催	開催	—	—
市立図書館の資料活用	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
ボランティアの養成	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

## 4. 実施内容(実績)および効果

### 【実施内容】

- 学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)が市内小中学校12校に週1.5日勤務した。
- 蔵書情報データベース化に向け、市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣し蔵書の整理や図書館の整備を行った。
- 司書教諭研修講座は司書教諭以外の教員も参加を可能とし、8月に青山女子短期大学の堀川照代教授をお招きし「学校図書館活用で育まれる力」という演題で行った。
- 市立図書館の資料活用については、年2回の学校図書館担当者会に児童図書館長に出席いただき、取組方法について周知した。
- ボランティアの養成については市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行い、基本的図書館の整備方法について実践しながら講習を行った。

### 【効果】

- 学校図書館コーディネーター(いわゆる学校司書)を派遣した小学校については、派遣していない小学校よりも「読書が好き」な子どもの数や「1カ月の平均読書冊数」が上回り、派遣の効果がみられた。
- 蔵書情報データベース化に向けて、市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣し、蔵書の整理や図書館の整備を行った。27年度で全校の整備が一通り終了し、データベース化に向けて動きやすい環境を作った。
- ボランティアの養成については市の臨時職員を1カ月ごと2名ずつ週3日派遣する際に、派遣校のボランティアとともに作業を行い、基本的図書館の整備方法について実践しながら講習を行った。のべ369人のボランティアと関わることができた。

## 5. 課題

- 平成28年度からの学校司書小学校全校配置をより効果的なものにするためには、学校司書の研修体制を整えるとともに、学校図書館支援センターのような組織や学校図書館アドバイザー等の人的配置の必要性も感じている。
- 学校図書館の整備状況について学校司書の打ち合わせ会を通じて把握し、市としての方向性をもって改善を図っていく必要がある。
- 蔵書情報データベース化に向けては、中学校は図書館にパソコンが入っていないため進めることが不可能である。また、小学校の図書館にはパソコンが入っているが、OS環境が整っていないため、データベース化が進みにくい。

## 6. 課題に対する今後の改善策

- 学校司書が司書教諭やボランティアと共同してより良い学校図書館づくりに取り組めるように、配置校を巡回して読書活動の推進と授業での活用について学校への啓発を行っていく。
- 市立図書館や学校図書館ボランティアとの連携を強化し児童生徒や教員が使いやすい学校図書館づくりをめざす。
- 蔵書のデータベース化に各学校が取り組めるように、図書館整備を進めていきたい。
- 学校図書館担当者会で図書館活用やデータベース化のメリットについて周知していきたい。

### ※学識経験者の意見等

- より良い学校図書館づくりはICT教育や探究的な授業の促進を図る上で必要不可欠な要素である。教師が「教える授業」から児童生徒自らが「求めて学ぶ」、「学びに向かう」姿を生み出すために、調べたり相談したりできる場所としての学校図書館の一層の充実が望まれる。

### ※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

- 学校図書館の学習センター、情報センターとしての機能を生かした研究推進校をはじめとする各校の実践を、学校図書館担当者会、学校司書連絡会で発信し、有効な取組が市内で共有できるようにしている。児童生徒自らが「求めて学ぶ」、「学びに向かう」姿を生み出すために、今後も教育課程に寄与する学校図書館づくりにおいて物的整備、人的整備の充実を図っていきたい。特に、司書教諭や学校司書の研修の充実を図り、各教科での調べ学習における指導や支援への理解が深まるように取り組んでいきたい。